# NUAL 名古屋大学全学同窓会 NAGOYA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION Newsletter

No.36 令和3(2021)年10月

NUAL（ニューアル）は Nagoya University Alumni Association の略称です。

上段左：名古屋大学人力飛行機製作サークル AirCraft　試験飛行，上段右：小笠原文雄岐阜支部長がヘルシー・ソサエティ賞を受賞
下段左：全学同窓会講演会（ウェビナー），下段右：「大学生のコミュニケーションってどんなもの？」講演の様子
Upper Left: Nagoya University Human Powered Airplane Team 'AirCraft' makes their test flight;
Upper Right: Gifu Branch Chairperson Dr. Bunyu Ogasawara wins a Healthy Society Award;
Bottom Left: NUAL 2020 Lecture (webinar); Bottom Right: During the lecture: 'How do university students communicate?'

## Contents


特集1　名古屋大学全学同窓会講演会（ウェビナー）報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
Report on the NUAL 2020 Lecture (webinar)

特集2　第4回名古屋大学同窓会サミットの開催 ・・ 3
The 4th Summit Meeting of NUAL Associations

活躍する会員たち ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
NUAL People in Action

特集3　岐阜支部の小笠原文雄支部長が第16回ヘルシー・ソサエティ賞を受賞 ・・ 8
Gifu Branch Chairperson Dr. Bunyu Ogasawara wins the 16th Healthy Society Award

同窓会ニュース ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
NUAL News

事務局からのお知らせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
From the NUAL Office


特集では、オンラインで開催された令和2年度名古屋大学全学同窓会講演会での所功先生のご講演の様子、小笠原岐阜支部長のヘルシー・ソサエティ賞受賞のご報告、第4回名古屋大学同窓会サミットの様子をお伝えします。活躍する会員たちのコーナーでは、工学研究科卒の永冶さん、国際開発研究科卒の石原さんにお話しいただきます。

In our special features, we bring you details of Professor Isao Tokoro's lecture at the virtually held NUAL 2020 Lecture, a report on Healthy Society Awards winner and Gifu Branch Chairperson, Dr. Bunyu Ogasawara and news from the 4th Summit Meeting of NUAL Associations. In NUAL People in Action, we hear from Mr. Yasuji Nagaya, alumnus of the Graduate School of Engineering, and Dr. Yoichiro Ishihara, alumnus of the Graduate School of International Development.

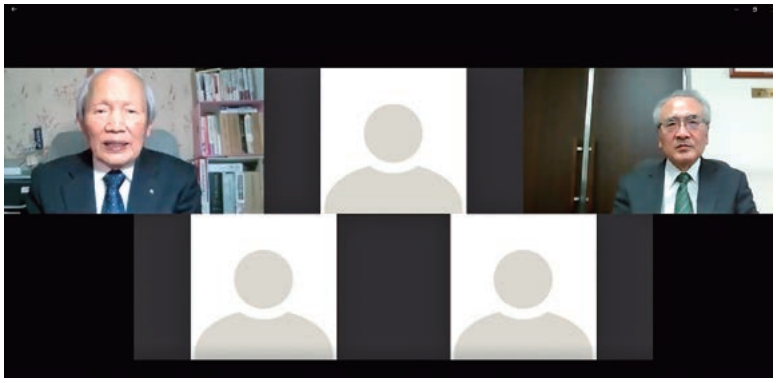
特集1

# 名古屋大学全学同窓会講演会（ウェビナー）報告
# 「宮廷文化の再発見」（講師：所 功 京都産業大学名誉教授）
## *Report on the NUAL 2020 Lecture (webinar)*

名古屋大学全学同窓会　代表幹事
和田　壽弘

名古屋大学全学同窓会講演会が令和3年2月22日（月）に、ウェビナー形式で開催されました。京都産業大学名誉教授でいらっしゃる所功様を講師にお迎えしました。例年は12月に開催されてきましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を受けて集合での講演会が持てなくなり、開催時期も遅れることとなりました。また講演会後の夕食会も中止となりました。皆様にお目にかかることがかなわず、残念でなりません。全学同窓会と一般社団法人学士会との共催で本学の後援を受け、参加者は340名ありました。

7回目の講演会ですがウェビナーは初めてのことで、不慣れなことは勿論、不明な点も多々あり、参加申し込みや視聴の際には皆様にはご不便をお掛けしたやも知れません。ご容赦を願うばかりです。当初、所先生には講演会当日に来学いただいて、ライブ配信する予定でした。この方針で準備を進めている折に、先生から万が一にも来学できなくなった場合に備えて録画収録をしておきますとの連絡を受けました。2月7日に発出された緊急事態宣言が延長され、危惧が現実となりました。先生の録画収録に救われました。



質疑応答の様子

講演直前には講演レジュメの画像と共にBGMを流しました。講演会冒頭では、代表幹事の挨拶に続き、学士会の小堀康生事務局長の挨拶、所先生の紹介、そして先生のご挨拶をライブ配信しました。講演は録画で、先生の優しい語り口が伝わってきました。

宮廷文化の成り立ちを歴史的に話され、平安京における大内裏と内裏の機能の違いに言及され、特に宮廷儀式の特徴を指摘されました。唐風と和様の装束の使い分けなど、興味深い指摘でした。近現代に至って、宮廷文化にも復古と変革が起こり、私達が古来の伝統と思い込んでいることにも明治以降変革されたことが多くあることを知らされました。例えば、日本の伝統では「左上位」でしたが、西洋文化の影響を受けて「右上位」となり、即位儀礼などでも天皇と皇后の位置もこれに従う様になったとのことです。また、この儀礼の中で天皇のみが高御座を用いていたが、皇后も使用する様になったことなどです。伝統とは何か、変革とは何かを考える切っ掛けとなりました。

宮廷儀礼に関する文献は名古屋市鶴舞中央図書館や蓬左文庫にも保管され、文献の広がりに驚かされました。現在、宮廷に関する膨大な文献に接することができる場として、京都御苑の一角を占める東山御文庫の紹介がありました。先生の夢として、同じく京都御苑にある旧閑院宮邸跡で宮廷文化についての映像・絵画の資料などを一般公開できる様にしようという話がコロナ禍で頓挫しましたが、実現したいとのことでした。宮廷文化のみならず日本文化に対する意識を強く喚起させられました。

講演後には視聴者からの質問を2つ取り上げ、先生にはライブで答えていただきました。最後に松尾清一総長から感想が寄せられ、所先生の答えの中に「長い時間軸の中で物事を見る」ことの重要性を読み取りました。他のすべての質問に対して、先生は講演会後に回答をとの意向を示されたので、文章による回答を参加者全員に送信しました。ウェブによるアンケートにも210名を超える方々に答えていただきました。実施経費の工面さえつけば取り組んでみたい提案もありました。試行錯誤の中での講演会実施でしたが、何とか終えることができました。感謝申し上げます。

特集2

# 第4回名古屋大学同窓会サミットの開催
## *The 4th Summit Meeting of NUAL Associations*

名古屋大学全学同窓会　副会長
伊藤　義人

### 1. はじめに

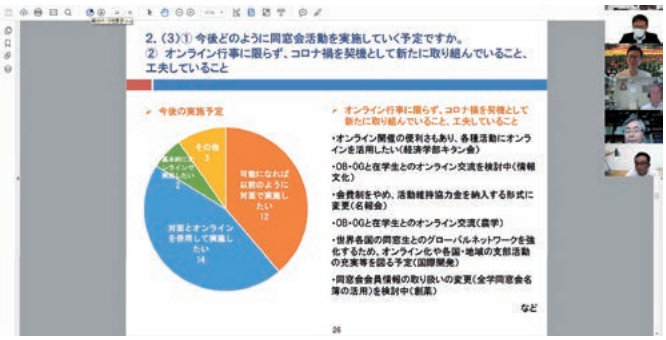
令和3年7月3日（土）の16時から、オンライン（Zoom）で、第4回名古屋大学同窓会サミットが開催されました。第3回は、令和元年7月27日に対面で開催されましたが、翌年度からのコロナ禍によって昨年度は開催できず、今年度は遠隔での開催にこぎつけました。

一昨年と同様に、学部や研究科の部局同窓会だけでなく、独立して活動している学科や専攻の同窓会の会長および事務局長（幹事長）などの各同窓会の役員に参加いただきました。私が、議長を務めましたが、全学同窓会から、齋藤副会長、西村副会長および和田代表幹事にもご参加いただきました。また、松尾総長と木村副総長の大学役員にもご出席いただき、総勢46名でした。名古屋大学には、現在31の同窓会がありますが、今回は、26の同窓会が参加しました。5つの同窓会が、会長や幹事長のご都合がつかず欠席でしたが、いつもの事前アンケートには、ほとんどの同窓会から回答があり、事前に図表にまとめて議論の材料にしました。

### 2. アンケート項目についての意見交換

最初に、齋藤副会長と松尾総長から、ご挨拶をいただきました。その後、2年ぶりのサミットということで、前回から同窓会役員の参加者が多く代わっていましたので、簡単な自己紹介を行いました。

事前アンケートの項目ごとに、私からアンケート結果を説明し、その後、意見交換を行いました。




同窓会サミットの様子

1）各同窓会における活動状況と今後の見通し

コロナ禍において、集合形式の活動ができず、活動を休止している同窓会もありました（7同窓会）が、他の同窓会は概ね実施または一部実施ということでした。遠隔講演会などのコロナ禍での特徴ある活動を行った同窓会もありました。この場合、海外を含む遠隔からの参加者もあり、大変良かったという説明がありました。国際開発研究科同窓会は、学生の8割が留学生ということで、今後もオンラインを活用したいということでした。なお、オンラインで活動をしているのが、17同窓会でした。

2）コロナ禍における名古屋大学・部局・学科専攻支援について

アンケート結果では、このコロナ禍においても、8同窓会が支援を実施しているという結果でした。意見交換の結果、大学も学生支援として実施されましたが、同窓会が学生にモバイルルーターを貸し出した事例も報告されました。なお、松尾総長から、生活困窮学生に一人3万円の給付を行ったことが報告されました。新型コロナウィルス感染症に関する特定基金に5,000万円の寄付があったことも報告されました。

3）新たな連携・交流の可能性

職域同窓会との連携･交流について、法学部同窓会と経済学部キタン会から報告がありました。地域社会への貢献は、3同窓会しかなく、今後の課題となりました。既に実施されている同窓会もありますが、同窓会関係者だけで行っている講演会（特にオンライン）を外出ししたらよいという意見も出ました。

### 3. 名古屋大学基金（特定基金）の現状報告と今後の連携について

木村副総長から、名古屋大学基金の現状などを資料を用いて、説明がありました。200億円の当初目標が、あと少しで実現するという報告でした。また、各部局等で展開している特定基金についても説明がありました。その後、松尾総長から、同窓会に対して、引き続き、今後の協力要請がありました。

### 4. おわりに

最後に、西村副会長から閉会の挨拶がありました。今回は、対面ではないので、交流会（懇親会）は開催されませんでした。来年度は、コロナ禍が終息して、是非とも交流会（懇親会）も開催したいと思います。

# 活躍する会員たち　NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第36回は、大学院工学研究科をご卒業され建設コンサルタントの分野でご活躍の永冶泰司さん、大学院国際開発研究科で博士学位取得後、世界銀行でご活躍の石原陽一郎さんにお話しいただきました。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni in various sectors. For this 36th installment, we spoke to Mr. Yasuji Nagaya, an alumnus of the Graduate School of Engineering currently working in construction consulting, and Dr. Yoichiro Ishihara, who received his PhD from the Graduate School of International Development and is now working for the World Bank.

## 永冶（ながや）　泰司（やすじ）さん

■略歴

| | |
|---|---|
| 1974年 | 名古屋大学工学部土木工学科入学 |
| 1978年 | 名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻入学 |
| 1980年 | 同修了 |
| 1980年 | 株式会社長大橋設計センター（現長大）　入社 |
| 2009年 | 株式会社長大　代表取締役社長　就任（現） |

卒業後、早40年を超えて、ロートルになってしまいましたが、ずーっと㈱長大に在籍しています。2009年に社長に就任してからも干支が一回りしてしまいました。

### 1. 長大という会社

「長大」という会社は、「建設コンサルタント」という分類の職業になります。土木以外の人には馴染みのない業種だと思いますので簡単に説明しますと、インフラ整備に係わる調査 / 計画 / 設計 / 施工監理 / 維持管理･運営などを行う業種になります。古くは役所のお手伝いという立場で道路、河川、都市計画等のインフラ整備を行うことでしたが、最近は PFI（Private Finance Initiative）に代表されるような役所の立場ではできないこと、やりにくいことを主体的に行うことが増えてきています。

長大は、世界最長の吊り橋の「明石海峡大橋」をはじめとする本州と四国を結ぶ長大橋梁の実現可能性を検討し、解析、設計等を行うことを目的に設立された会社です。設立後、半世紀以上経ちましたが、その間、本州四国連絡橋の解析技術等を活かして、環境、交通、道路、河川、IT 等へ事業分野を拡げてきました。

### 2. 私の仕事歴

新入社員で入社した時の所属は、「開発部」というところで、ソフトウエア開発を担当していました。当時は、まだパソコンの時代ではなく、汎用コンピュータとカードリーダという今では想像もつかないような時代で、プログラミングしたカードを読み込ませ、アウトプットされるのが半日後という環境でした。それでも汎用コンピュータを自社で持っているのは極めて最先端でした。その後、ミニコン、パソコンと時代は移っていき、今はスマホでなんでもできる（特殊な大量演算を除き）時代になりましたが、昭和の終わりごろにパソコンが普及し始めて、パソコンを使った道路アセットマネジメントの企画、設計等を始めました。

その後、ETC やカーナビゲーションなどで知られる ITS（高度道路情報システム）の開発、普及に努めてきました。土木工学の出身ですが、入社後は土木と間接的に関わる分野での仕事をしてきた感が強いと思います。2006年に取締役に就任してからは、海外事業部長とし

て、僅かですが海外の橋梁設計事業等にも関わりました。

社長に就任してから、特に力を入れていることが、2つあります。1つは、国土強靭化です。豪雨災害が近年多発しており、雨の降り方も昔と随分違って、激しいものがあります。国土強靭化といっても、単に頑丈なインフラを作るということではなく、クリーンエネルギー化や避難行動を促すソフト対策、避難の時間が稼げる粘り強い構造部など以前とは違う対応が必要になってきています。そのため、ここ数年で、小水力発電、バイオマス発電などを完成させ、自ら発電事業者となって環境負荷の軽減を図っています。今年になってからも、台湾で太陽光発電を推進するために、地元企業と連携協定を結び、子会社を設立しました（写真1）。

2つ目は地域創生です。ずいぶん前から、消滅集落や、中心市街地のシャッター通り化など問題にはされていますが、なかなか地方が元気にはなりません。地方が元気になるには、老若男女問わずその地域に住みたくなることが必要です。そのための環境整備は、単に箱モノをいくつか作るだけではだめで、衣食住、医療、教育、娯楽、エネルギーなど、様々なものが維持更新されていく必要があります。そのため今年になってからも、自治体と2件の包括連携協定を結び、まちづくりに積極的に関わっていくこととしています（写真2, 3）。

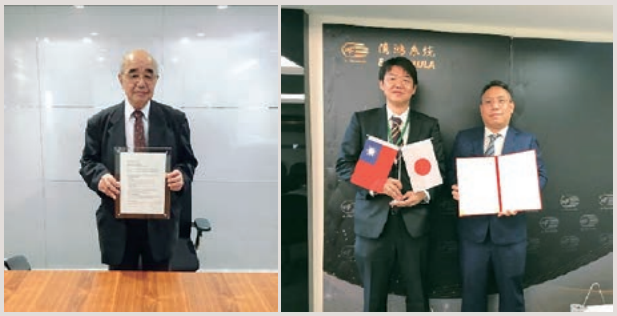


写真1　台湾太陽光発電事業への共同出資に向けた包括的覚書の締結

包括連携協定は、自治体に様々な企画提案をし、地元企業、住民の方々と一緒になって施策を実現していくもので、新エネルギーはもちろん、新たな農業、林業、交通、交流、市町村経営、地域通貨など、様々なものに取り組む必要があります。それには、地元企業の育成はもちろん、様々な得意分野を持つ企業と長期間にわたる連携が必要になります。そのため、長大は、従来、事業持株会社として、事業を行いつつグループ企業運営を行う形をとっていましたが、様々な企業がより参加しやすくすること、建設コンサルタントという枠を取り払うということから、長大を事業会社とし、純粋持株会社「人・夢・技術グループ株式会社」を設立することとしました。今年10月に長大に代わって人・夢・技術グループが東証一部（市場再編に伴いプライム市場に上場予定）に上場することになります。

社長就任以来「人が安全安心な暮らしができて、夢をもって生きられる社会を作るために技術で貢献する」を理念に、いろいろな事業を進めてきました。さらにこれを強力に推進したいと思っています。後進もその理念を引き継いでくれるものと思っています。一緒にやりたい、参加したいという方がいらっしゃったらお声がけください。

写真2　北海道更別村との包括連携協定

写真3　大分県国東市等との包括連携協定

いしはら　よういちろう
**石原　陽一郎さん**

■略歴

| | |
|---|---|
| 1998年 | ロンドン大学 School of Oriental and African Studies (SOAS)・開発修士号取得 |
| 2001年 | 世界銀行・インドネシア駐在エコノミスト |
| 2004年 | 名古屋大学大学院国際開発研究科・博士号取得 |
| 2007年 | 世界銀行・アフガニスタン駐在シニアエコノミスト |
| 2010年 | 世界銀行・ワシントン本部シニアエコノミスト |
| 2013年 | 世界銀行・ルワンダ駐在シニアエコノミスト |
| 2016年 | 世界銀行・ブータン王国事務所長兼シニアエコノミスト |
| 2020年 | 世界銀行・レソト王国事務所長 |

みなさん、レソト王国という国を知っていますか?国をすべて南アフリカに囲まれた人口約2百万人の小さな国です。あえて世界一をあげるとすると、国の最低標高（約1400メートル）が世界一高いということくらいでしょうか。国民性はすごく穏やかで、環境汚染とは無縁の美しい地形を持つ国、レソト王国と世界銀行の仕事について少しでも知ってもらえたらと思います。

**【レソト王国の開発問題と世界銀行の役割】**

レソトの人たちってカメラを向けると本当に自然な笑顔で笑うのです。一方、現状はかなり過酷です。コロナ前の2017年でも人口の半分は貧困状態にあり、成人のほぼ1/4はHIVに罹患しています。コロナ後は貧困状態にある人がさらに増えているのではないかと思います。経済は2020年まで4年連続でマイナス成長。失業率も30%に達しています。このようなことを書くと、レソトは他のアフリカの国々のような紛争問題を抱えているような印象を与えるかもしれませんが、レソトは1966年の独立以降目立った内紛もなく、水や鉱物資源などにも恵まれています。南アフリカに囲まれているので、大きく豊かな市場へのアクセスの可能性も十分にあります。にもかかわらず、貧困問題が未だに解決されていない大きな理由は、教育・医療、インフラなどへの必要な投資が行われてこなかったことにあります。このような分野への投資が行われれば、レソトのアドバンテージを今後の発展に活かしていける可能性が高くなります。

コンピュータ学校に通うレソトの学生。世界銀行の支援する道路のプロジェクトで通学時間が半分に。

世界銀行は、レソトでは主要な援助機関です。融資コミットメント金額の4億ドルは国内総生産（GDP）のほぼ2割に相当します。融資を行っている分野も医療、教育、水資源、電力、民間産業開発、公共セクター改革などほぼ全ての分野をカバーしています。融資だけではなく、能力向上のためのプログラムを提供し、技術支援、調査分析書の作成なども行っています。最近ではレソトが新型コロナウイルスワクチンを購入する際の資金や保健医療システム強化への融資を行うことも決定しました。

私の仕事はレソト事務所長として世界銀行のレソトでの支援プログラムをまとめることです。その核となるのが国別パートナーシップ・フレームワーク（Country Partnership Framework、CPF）です。これは、今後5年間に世界銀行グループがレソトの開発のためにどの分野でどのように支援していくかを定めた指針です。このためには、レソトが発展するための機会と課題は何か、前回のCPFから学んだ経験をどう活かすか、そして最も重要なのは国の開発方針とどうやって整合性を取るかということです。いうまでもなく、他の開発援助機関との協調も大切になります。書くと簡単なようですが、実際には政府や他の援助機関とだけではなく、民間セクター、大学・教育機関とのコンサルテーションが必要になります。さらに、裨益者からの声を反映することも重要です。2021年の6月と7月だけで20以上の機関・組織とコンサルテーションをしてきましたがまだまだ道半ばです。来年初めまで半年以上かかる大変な作業ですが、様々な意見を反映した良いフレームワークをつくっていきたいと思います。

世界銀行の代表としてレソト政府の首相や大臣と政策について対話を行うことも重要な仕事の一つです。とはいっても、レソトには30近い省が存在し、省庁間の連携も残念ながらうまく取れていません。また1966年の独立以来

他の国際機関の所長と一緒にレソトの大臣と水資源開発のための対話を行う。

政治的な不安定が続いています。僕がレソトに着任した2020年以降も何人担当した大臣が変わったか数え切れません。前日話した大臣が翌日は変わっていたなんてこともあります。こればかりは、どうにもならないので辛抱強く対話を続けていくしかないですね。

こういった政策協議も醍醐味の一つですが、やはり世界銀行が支援しているプロジェクトサイトの現場を見に行って、そこで裨益者と直接話をすることが一番楽しいです。最初の写真の学生は世界銀行の支援した道路建設プロジェクトのおかげでコンピュータの専門学校に歩く時間が3時間から1時間半に減ったと本当によろこんでいました。コロナで必要な種子や肥料の調達が困難になってしまった農民に対して行った、農業プロジェクトの緊急融資では、他の国際機関と協力して種子や肥料を直接届ける枠組みをつくりました。2004年に世界銀行に入って以来ほぼマクロエコノミストとして経済分析や経済・財政政策アドバイスの仕事をしてきたため、あまり現場に行く機会はありませんでしたので、自分の専門外の分野のことをいろいろ学べる機会をありがたく思っています。

**【名古屋大学大学院国際開発研究科】**

名古屋大学大学院国際開発研究科で博士号を取得したことは、僕が世界銀行でキャリアを積むうえでは、重要なターニングポイントになりました。

国際開発研究科では大坪滋先生に師事しました。将来的に世界銀行で働くことを考えていたので世界銀行出身者の大坪先生と連絡を取らせて頂きました。今では考えられませんが、ほとんど電話と手紙でのやりとりでした。博士課程に入った当時はインドネシアの日本大使館で専門調査員として働いており名古屋に住んで勉強するのは不可能だったので、相談すると「いい論文を書いてくれれば」というありがたいお返事を頂きました。この時は、どれだけ大変かは全く想像していませんでしたが。最後の年はタクシーの中でも書くくらい追い詰められていましたが、なんとか5年で修了しました。博士論文のタイトルは Economic Governance and Crisis in Developing Countries。ロンドン大学での修士論文でインドネシアの経済危機について書いたので、この課題をさらに進めていきたいと考えました。

自分の興味のある課題についてここまで深く考えたことはなかったので、博士号を取得するという以上に、考え方を深めるといういい経験になりました。余談ですが両親の出身は名古屋近郊で、祖父も名古屋大学の出身なので縁を感じます。

**【5つの低中所得国に住んでみて】**

2001年に世界銀行に入ってから、インドネシアから始まって、アフガニスタン、ルワンダ、ブータン、レソトと低中所得国に実際に住んでの仕事は5か国目になります。アフガニスタンの後はワシントン DC の本部でも3年働きましたが、これまでのキャリアのほぼすべてが低中所得国勤務です。ここまで色々な国に赴任している職員は世界銀行の中でも珍しいかもしれません。

こういった話をすると、低中所得国で働けるのは特別な資格や能力が必要ではないですか?なんでわざわざ、日本から離れた危険な場所や不自由な場所で働くのですか?という質問をよく受けます。世界銀行の場合は修士号の取得と英語（及びほかの言語）で仕事ができる能力、得意分野で低中所得国の発展に貢献できる知識と経験が求められます。僕はそれにも増して開発に貢献してやろうというパッションが重要だと思います。僕自身最初にインドネシアで働き始めたときは不安でいっぱいでしたが、現地の開発に直接貢献できるという経験をしてからは、自分

世界銀行の支援する農業プロジェクトの裨益者を訪ね、プロジェクトの効果について意見を聞く。

の得意分野を伸ばしつつ、自分に刺激を与え続ける低中所得国勤務という選択をし続けています。ルワンダ、ブータンと一緒に異動してくれた家族には数え切れないほどの苦労をかけてしまいましたが。

ありがたいことに、年に何度かは大学で学生向けに世界銀行や国際開発分野でのキャリア形成の話をさせて頂いています。どの学生も開発に興味があるのですが、日本の外でキャリアを積むということには二の足を踏んでしまっている印象を受けます。自分自身も同じだったのでその感じはよく分かります。特に今は色々な情報が溢れているので、さらに思い切って外に出ることを選択するのは余計に難しいのかもしれません。最終的に決めるのは本人ですが、僕は他の人にも同じように低中所得国の開発に貢献する経験をしてほしいと思っています。これからは、そういった決断の後押しをできればと考えています。

特集3

# 岐阜支部の小笠原文雄支部長が第16回ヘルシー・ソサエティ賞を受賞

## *Gifu Branch Chairperson Dr. Bunyu Ogasawara wins the 16th Healthy Society Award*

名古屋大学全学同窓会副会長
岐阜支部幹事　伊藤　義人

名古屋大学全学同窓会岐阜支部の小笠原文雄（おがさわらぶんゆう）支部長が、第16回ヘルシー・ソサエティ賞（医師部門）を受賞されました。（公社）日本看護協会 / ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ共催の、「より健やかな社会を築くための個人の素晴らしい努力を顕彰する」賞であり、長年にわたる小笠原支部長の「在宅医療と地域医療を追求」が評価されたものです。

松尾清一総長、濵口道成 JST 理事長、古田肇知事など6名による推薦によって、審査の結果受賞されました。

小笠原支部長の原点は、原因不明の病気に侵された実姉（享年20歳）を病院から引き取り自宅で看取ったことだそうです。（https://ogasawaraclinic.or.jp/info/719.html）

名古屋大学医学部を1973年に卒業後、循環器内科専門医として研鑽を積み、1989年に岐阜市で小笠原内科医院を立ち上げ、在宅医療と訪問看護を始められました。日本において訪問看護制度が創設される3年前のことでした。1500人の患者さん、内ひとり暮らしの方100人以上を看取られ、在宅医療の質を飛躍的に高めておられます。そのスキルを在宅医療の現場で多くの開業医に教えているのです。

現在は、日本在宅ホスピス協会の会長をされ、住み慣れた処で最期まで健やかに暮らせる地域包括ケアシステムづくりに貢献されています。

ヘルシー・ソサエティ賞には、賞状とトロフィー、看取りの家族とのピースサインの彫像と大きなポスターが授与されました。

第15回の授賞式は、皇太子夫妻（現天皇陛下・皇后陛下）が出席されての授賞式でしたが、今回の第16回はコロナ禍の中で、初めてオンラインで行われました。（https://www.jnj.co.jp/hsa/2020）

名古屋大学全学同窓会岐阜支部長として、全学同窓会活動にも貢献され、全学同窓会・学士会主催の講演会でも講師をされました。

ヘルシー・ソサエティ賞　トロフィーと看取りの家族とのピースサインの彫像

小笠原文雄：医学博士、小笠原内科・岐阜在宅ケアクリニック理事長・院長、日本在宅ホスピス協会会長、名古屋大学医学部特任准教授、岐阜大学医学部客員教授、著書「なんとめでたいご臨終」

# 同窓会ニュース　NUAL News

## 令和2年度第2回大学支援事業　採択事業

令和2年度第2回大学支援事業に6件の応募があり、審査の結果、表の4件が採択されました。

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会HPでも公開されます。

また、これまでに採択した事業を全学同窓会HPで公開しています。

令和2年度第2回　採択事業

| 所属・職名等 | 申請者 | 事業名 |
|---|---|---|
| 農学部資源生物科学科・3年（漕艇部主務） | 大岡久美子 | 名古屋大学漕艇部110周年記念　新艇庫整備事業 |
| 学生支援センター／心の発達支援研究実践センター・准教授 | 杉岡　正典 | 「コロナ禍における体験や気持ちを語り合い、つながりを取り戻そう―名大ピアサポーターと学生支援センターによる在学生、卒業生、保護者の世代内・世代間交流の試み―」 |
| 大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻・教授 | 原　　進 | 名古屋大学・岐阜大学が連携した実習型工学教育の挑戦 |
| 文学部2年（第62回名大祭実行委員会 委員長） | 日比野光佑 | 第62回名大祭 |

# 同窓会支援事業　NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

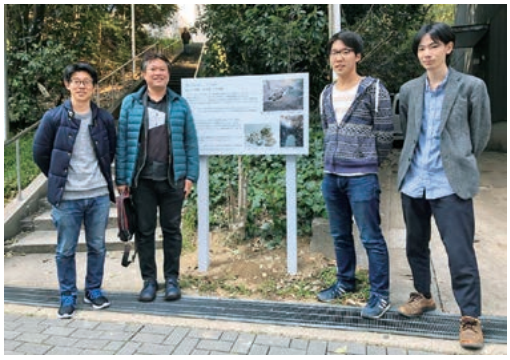
NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

## 東山キャンパス内における古代窯業遺跡の周知公開

**申請代表者：梶原義実**
**（人文学研究科・教授）**

名古屋大学東山キャンパス内には、多くの古代窯業遺跡が存在しています。名古屋大学考古学研究室では、これらの窯跡の発掘調査を継続しておこなっており、多くの貴重な成果を得てきました。しかしその成果については、残念ながらいまだ学生・大学関係者・周辺住民の方々含め、広く周知されているとは言い難いのが現状でした。

このたび、名古屋大学博物館特別展「アフリカから東山キャンパスまで　名古屋大学による遺跡調査からみる人類史」（2020年3月～9月予定が、コロナ禍により2020年9月～2021年4月に変更）との連携事業として、全学同窓会のご支援を受け、下記の事業を遂行いたしました。



遺跡案内板の設置（令和２年２月）

1）東山キャンパス内の遺跡現地付近への遺跡案内板の設置および、出土遺物のサテライト展示

東山61・39・118号窯（環境総合館向かい）、東山72号窯（ブックスフロンテ内）、東山114号窯（野依記念学術交流館内）という、遺跡の現地付近に案内板を設置し、また出土遺物を展示することで、東山キャンパス内に貴重な遺跡が存在することを多くの方々に知ってもらうことができました。

2）「文化遺産カード」の作成と配布

こちらもおなじく博物館との連携事業で、特別展を観覧に来た方々に、遺跡の現地に足を運んでもらうきっかけになりました。

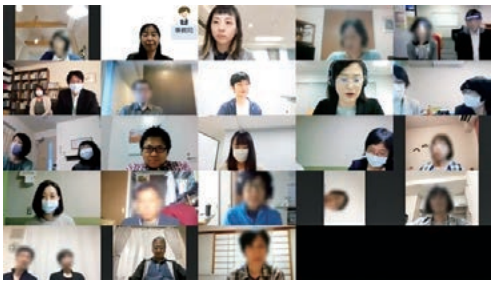
3）『東山118号窯発掘調査報告書』の刊行

窯業遺跡の発掘調査成果を公刊することで、この地域の歴史研究に資する基礎資料を提示することができました。

## 「大学生のコミュニケーションってどんなもの?」

**申請代表者：工藤晋平**
**（学生支援本部・准教授）**

令和2年度、ホームカミングデイ学生支援センター企画について、名古屋大学全学同窓会の大学支援事業の助成をいただき



分科会後の情報共有時の様子

ました。この企画は当初、大学生とのコミュニケーションをテーマに講演と座談会を行うことが予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、大学のあり方や家族のあり方が見つめ直される中で、改めて青年とのコミュニケーションを考えるという企画としてのテーマが打ち出されました。また、開催形態もオンラインとなり、手探りで作業が進められました。

当日は、31名の参加者を得て、第1部として青年期の親子のコミュニケーションについての講演（アビリティ支援センター・工藤晋平）および学生支援センター利用学生の保護者による体験談、第2部として分科会での保護者同士の経験の共有や情報交換が行われました。

講演では、自立に向けて青年期の子どもは親に拒否的な態度を取りながら、困った時だけ頼ってくるため、そのことに親が腹立たしく感じることがありうること、コロナ禍のような不安定な状況では誰もが落ち着かなくなって衝突が生じやすいこと、親の役目は灯台のように道を照らすことと戻ってくる場所を用意しておくことで、そのためにも保護者同士で励まし合う今回の企画が大事だと考えていることをお話ししました。保護者2名からは子どもが留年や休学になって苦しかったこと、学生支援センターでの相談をしながら、コロナ禍が幸いしたり、本人の努力もあって、今は落ち着いていることの語りを伺いました。分科会では短い時間ながらお互いの情報交換や意見交換が見られています。事後のアンケートには時間が足りなかった、もっと話したかった、などの感想が寄せられました。

この詳しい報告は、学生支援センター改め、学生支援本部のプロフィールに掲載をしています。

（https://www.gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp/publications/pdf/profile2021_ja.pdf）。

## 学生とともにつくる大学博物館 ～博物館20周年～

申請代表者：梅村綾子
（博物館・研究員）

名古屋大学博物館は、スローガン「未来に活かす博物館」に向け、次世代を担う「若者の視点」を取り入れることに積極的に取り組み、学生らの自発的な活動をサポートしています。また、こうしたサポートを通し、大学博物館が、学生らにとって社会へ巣立つ前の社会経験を積む場であるよう、体制を整えているところです。

令和2年度は、名古屋大学全学同窓会大学支援事業より助成を受け、おかげさまで、名古屋大学博物館学生運営スタッフ団体（登録数114名／2021年3月現在）のワーキンググループを、有志の学生ら8名と立ち上げ、勢いよく始動いたしました。名古屋大学博物館の広報、展示・イベント企画、調査・分析を主な活動内容とし、多彩なチームワークのもと、事業を展開することができました。引き続き、本事業の発展に向け、名古屋大学博物館スタッフとの直接的なやりとりにより取り組んで参ります。

【令和2年度 ワーキンググループ・メンバー（学年は令和2年度当時）】

今泉歩波さん（文学部4年）、堀雅紀さん（文学部3年）、出町史夏さん（理学部3年）、佐古楓香さん（文学部2年）、岩崎はづきさん（情報学部2年）、竹味和輝さん（名工大・情報工学科2年）、吉田颯稀さん（工学部2年）、杉山亜矢斗さん（創薬科学研究科 修士2年）

【令和2年度 ワーキンググループによる主な活動】

・学生運営スタッフ団体として、活動の場を広げ展開していくため、団体名を「MusaForum（ムーサ・フォルム）」とし、ロゴを設定しました。「文芸を司る神（musa）の集まり（forum）」という意味を込めています。
・HP、SNS（Twitter、Instagram）を開設し、情報発信の手段を整えました。
・同世代である大学生／大学院生のネットワーキングを図るため、オンライン交流会を数回実施しました。「博物館」を共通キーワードに、多分野の学生が集い、互いの視点から新企画を創出するきっかけづくりを提供することができました。
・実際、立ち上がった企画として「化石レプリカづくり体験（1月12日・13日実施）」および「みんなではなし math（2月20日実施）」があります。学生らは、授業および博物館標本に学んだ内容を一般向けにアレンジし、実施しました。実施後にも改善点を洗い出し、引き続き、企画のブラッシュアップに努めています。
・更に現在、地域社会とともにつくる博物館のあり方を目指し、

名古屋大学博物館学生運営スタッフ団体「MusaForum（ムーサ・フォルム）」のホームページ（画面より一部抜粋）、およびロゴとその意味

博物館来館者のマーケティング調査を行うなど、活動を展開しています。

## 名古屋大学人力飛行機製作サークル AirCraft 鳥人間コンテスト出場及び優勝に向けての機体製作及び運用

申請代表者：岡本悠生
（名古屋大学工学部　マテリアル工学科3年）

名古屋大学人力飛行機製作サークル AirCraft は基本的に学生のみで運営を行っている団体です。その為、資金繰りで頭を悩ませることが多く、特に今年は新型コロナウイルスの為、学生団体からの支援金の大幅なカットにより金銭面でも活動の継続が困難でありました。しかし、全学同窓会のご支援のおかげで大きな資金難に陥ることなく、無事に機体製作を予定通りに完了させ、8/1（日）に行われた鳥人間コンテストの人力飛行機部門に出場を果たしました。

今年、鳥人間コンテストに出場した機体は去年設計されたものをリニューアルしたもので、形状が非常に特殊であり、他チームと一線を画す新型機体となっています。実質的にその新型機体の運用は今年が初めてであったこともあり、大会でチーム記録更新などの目に見えた成果を得ることは出来ませんでしたが、技術面では製作した新型機体の反省点や問題点を知ることができ、運用面では鳥人間コンテストの会場での動きや雰囲気を後輩たちに肌で伝えることが出来ました。これらの知識や経験は来年以降の活動に大いに有用となるものであります。何より、昨年度の鳥人間コンテストに向けて設計された新型機体が、一年越しではありますが日の目を浴びたことをとても嬉しく思います。

それらの成果の他に、コロナ禍であるにもかかわらず多くの新入生の獲得や、新入生へ十分な技術伝達をすることができ、当初の目的通り、AirCraft を大いに盛り上げることが出来ました。これからも当サークルは多くの生徒の技術習得やエンジニアとしての心得の伝達など、社会で活躍できる人材を生み出し続けることを約束いたします。

パイロット　トレーニング風景

## ■同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。
詳細は、全学同窓会ホームページ http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/ をご覧下さい。

### ○関東支部

**1）東山会関東支部**

**第14回東山会関東支部総会**

日　時：2022年5月21日　13：00～
場　所：学士会館
連絡先：支部長　平澤 一範
E-mail：allex-sai2@ezweb.ne.jp

**2）農学部同窓会関東支部**

**第24回農学部同窓会関東支部総会（オンライン会議）**

日　時：2021年（令和3年）11月13日（土）　14：00～17：00
内　容：
1　報告など（支部長挨拶、特別報告、監査報告、役員選出）
2　講演「気候変動下におけるアジア・アフリカの米増産への挑戦」
山内　章さん（作物ストレス制御研究室教授　S62農 D）
講演「緑のオアシスづくり」
平井一男さん（NPO 法人自然環境観察会代表理事 S48農 M）
3　参加者の自己紹介（各人1分程度）
4　学生歌斉唱と記念撮影
5　閉会挨拶
参加方法：無料です。お気軽にご参加下さい。
申込方法などは支部 HP をご覧下さい
http://www.nua-alumkanto.sakura.ne.jp/
連絡先：支部長 石川靖文 E-mail　alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp

### ○名大遠州会

**名大遠州会第25回同窓会・第13回総会**

日　時：2022年6月4日（土）　18：00～
場　所：オークラアクトシティホテル浜松
連絡先：名大遠州会同窓会事務局長　鈴木鉄郎
E-mail：enshuszk@yahoo.co.jp

### ○医学部創基150周年記念行事

**創基150周年記念行事**

名古屋大学医学部の積み上げた長い歴史と、成し遂げた功績を振り返り創基150周年の喜びを分かち合うイベントを開催いたします。
日　時：令和3年12月11日（土）～12月18日（土）
場　所：12月11～17日：鶴舞キャンパス（オープンキャンパス・市民公開講座）
12月18日：東山キャンパス（豊田講堂）（特別講演・リサイタル）
主　催：医学部・医学系研究科
ＵＲＬ：https://www.med.nagoya-u.ac.jp/med-150th/event/
連絡先：医学部・医学系研究科総務課総務係
iga-sou1@adm.nagoya-u.ac.jp

# 事務局からのお知らせ　From the NUAL Office

**●支援会費のお願い　Call for contributions**

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

**○支援会費　Supporting Fee**

支　援　会　員　Supporting member　：一口　5,000円
支援法人会員　Supporting institution：一口　50,000円

**○お支払い方法**

郵便振替 Post Office Account　口座番号：00860－8－113043
自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

**●住所等の登録・変更について　NUAL member registration**

全学同窓会では、名古屋大学と連携して、名古屋大学卒業生等電子名簿を整備し、大学及び同窓会からの情報発信を行っています。住所等の変更があった場合は、名古屋大学卒業生等電子名簿システム（https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/）の情報を更新いただきますようお願いいたします。

お問合せ先：名古屋大学 Development Office（DO 室）卒業生等電子名簿担当
052-747-6559（9：00～16：00）　sotugyoumeibo@adm.nagoya-u.ac.jp

## 「名古屋大学カード」の入会のご案内

### ～ 名古屋大学カードで繋がる大学支援 ～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、
「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

### ◆名古屋大学カード ～ ゴールド ～

入会者は**18,000**名を超えています。

**年会費永年無料！**　家族会員様も1名様に限り無料。
**ポイントがたまる！**　家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯　最高3,000万円
- ショッピング保険　年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

**入会方法について**

① WEB からのご入会をご希望の方
名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/

②入会申込書からのご入会をご希望の方
名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL／FAX：052-783-1920（受付：9:00～17:00）

**●カード優待サービス企業の紹介**　http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/information/OBservice.html
**●カード優待サービスの企業を募集しています。**　詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

## 編集後記

コロナ禍で同窓会活動が縮小される中でしたが、オンラインで開催された同窓会講演会には多くの方にご参加いただけました。同窓会サミットの報告でもオンラインを利用する同窓会が多くあることが示されました。オンラインの有効活用含め、引き続き卒業生の皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

（全学同窓会広報委員会）

NUAL Newsletter　No.36　令和3（2021）年10月発行
Nagoya University Alumni Association
NUAL 名古屋大学全学同窓会
〒464-8601 名古屋市千種区不老町　TEL/FAX 052-783-1920
E-mail nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp
ホームページ　http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/
編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会